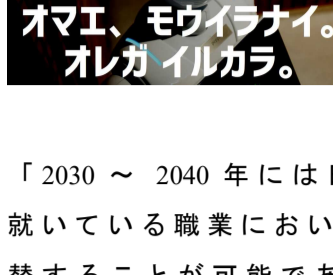


人工知能(AI)がライバル！

衝撃！ 10年後の会社オフィス！
ショック！



なーんてロボットがイスに座ってパソコンするわけじゃないですが、いま、会社員の事務作業をAIに記録し機械学習させているそう。そしてビッグデータが十分に集まった時点で、ホワイトカラーという一般事務職は無くなる。コワイですね～



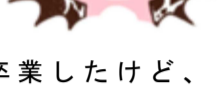
オマエ、モウイライナイ。オレカイルカラ。

他にも銀行員、工場勤務、警備員、建設現場作業員、電車・タクシー運転手、スーパー・コンビニ店員、ホテルフロント係と客室係

「2030～2040年には日本の労働人口の約49%が就いている職業において、人工知能やロボットに代替することが可能である」(野村総合研究所と英オックスフォード大学の共同研究.2015.より)だとか…

この先「これぐらいの仕事に就けばいいや」って、のんびりチンタラしてたら…

オーマイ・ゴッド！
仕事が、な～い！



それなのに、いま現在でも大学は卒業したけど、**就職できない(しない)**という若者が多いそう。



大学出たのに
こんな仕事なんて
やらないよ～

という中には、それぐらいの仕事しかできる**能力がない**という**現実**が、見えていない若者も多くいる。

教えられたとおりに
テストに答えたから
100点だよ～



知識量や記憶力は、学力としてますます評価されなくなる。だって教えたことを正確に再現する能力はAIにヒトは歯が立たないからだ！ でも…



20年後でも、人工知能AIにできないことが、あるはずだ！

人工知能に、こんなこと
させてみたらーって
考えるのは人間だよねえ～



美を感じるのは、
人間だけだし…

助け合って何かを成し
遂げるって、人間だけ
じゃなーい！



AIが苦手なのは
読解力！

『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』の著者の
新井 紀子 先生。

AI技術は、何が出来て何が出来ないのかを知り、どんな子どもたちのどんな仕事を奪ってしまうのかを知りたくて、東京大学の入学受験に挑戦するAIロボットの『東ロボくん』の制作した先生です。

その結果、MARCHレベルの大学に合格できるまでになったけど、これが限界と見定めたとのこと。

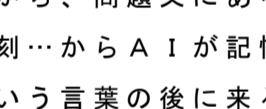
それは、AIの読解力の無さ、なんだって！
読解力??で、ここで問題です！

1「彼は、今回もまた報告書を出し忘れた」
2「おまけに会議に遅刻した」という文章の
あとに続く文としてふさわしいものを以下の
3つから選べ。

①彼は社会人として自覚がない。
②会議には報告書が必要だ。
③私は寝坊した。

AIの答えは…

③の
「私は寝坊した。」デス



AIは文章の意味が分からないから、問題文にある言葉＝報告／忘れる／会議／遅刻…からAIが記憶している、たとえば「遅刻」という言葉の後に来る言葉は何か？と探して、その確率の高い「寝坊」という単語が使われている文を答えとして選ぶ、のだそう。

つまりAIには**“意味”**や**“意図”**をくみ取りながら**解釈をする**ということができないので、人として常識的な「彼は社会人として自覚がない。」という答えにならない、というわけだ。

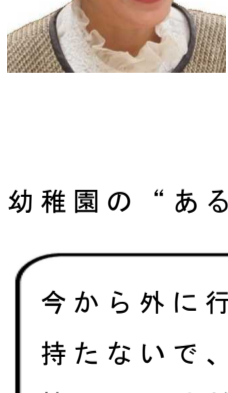
それから、読解力が高いと入試のテストの点数が高くなり、読解力が低いとテストの点数が低くなるという統計結果が出ていて、その相関関係は『0.8』



「背の高い両親から生まれた子は
背が高い」=0.8の相関関係

読解力と成績はリンクしているのだ！

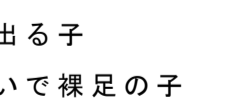
じゃ読解力を高めるには「読書」！って言いたいところだが、読書量やどんな分野の本が好きかなどを調査したけど、**読解力には関係がなかった**そう。



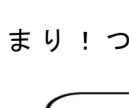
東ロボくんが、どうして答えを間違えたのかを調べながら、高校生も、どう間違えたのかを調べていくと「この子たち本当に問題文が読めているの？」という疑問が出てきた…

幼稚園の“あるある話”たとえば

今から外に行くよ。水筒は持たないで、クツは、手で持って、はだしで行くよ！



と、部屋で話をしたのに…

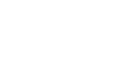
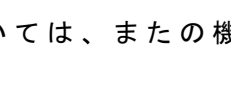


・水筒を持って行く子
・クツを履いて出る子
・クツを持たないで裸足の子

これって、**問題文が読めていない高校生と同じ**ですよ～大人の話、聞いてないし、大人との対話経験が少ない子に多い反応なんですよー

つまり！つまり…読解力のベースは幼児期の

親子の対話



あすなる幼稚園では、子どもとの対話を、ひとりひとりじっくりと時間をかけて先生がしています。少人数の園だからできることでもあります。

でも、“対話とはナニか？”ということは、とても大切な問いです。このことについては、またの機会にお話ししますね。